

後期重点施肥体系による 小麦「びわほなみ」の収量向上

東近江農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

対象は、経営面積約 60ha の大規模土地利用型経営体で、地域の中心的な担い手です。小麦については約 17ha 規模で、これまでは「農林 61 号」を作付されていましたが、令和 2 年産から試作的に多収品種「びわほなみ」を導入し、令和 3 年産では「びわほなみ」への全面転換を行われました。

「びわほなみ」の施肥は、地域の慣行体系で栽培されていましたが、砂地のほ場が多く、生育後半まで肥効が維持出来なかったため、収量が「農林 61 号」より低い結果となっていました。そこで、増収効果が実証された、生育後半の穂肥の施用量を増やす「後期重点施肥体系」の導入に向けて、技術支援を行いました。

【普及活動の内容】

ほ場に適した施肥体系を検討するため、複数の施肥体系を肥料費の試算とともに提案し、実証ほを設置しました。

また、は種作業を行う際は、苗立数を確保することの重要性を説明し、は種量、は種深度が適切になるよう支援しました。

【普及活動の成果】

5 パターンの後期重点施肥体系を提案し、対象との意見交換を重ね、3 パターンの施肥体系で実証ほを設けました。

また、適切なは種作業の実践支援により、必要な苗立数(200 本/m²)を確保することができました。引き続き、実証ほの生育を確認し、高収量が確保出来るよう支援します。



写真1 「びわほなみ」のは種作業

【パターン①】

	施肥資材	20kg費用 (円)	10a施放量 (kg)	10a費用 (円)	合計 (円)
基肥	国産化成肥料	1,650	20	1,650	4,538
穂肥	尿素	1,925	30	2,888	

【パターン②】

	施肥資材	20kg費用 (円)	10a施放量 (kg)	10a費用 (円)	合計 (円)
基肥	国産化成肥料	1,650	20	1,650	9,388
穂肥	麦用セラコート R2500	3,095	50	7,738	

【パターン③】

	施肥資材	20kg費用 (円)	10a施放量 (kg)	10a費用 (円)	合計 (円)
基肥	国産化成肥料	1,650	20	1,650	5,500
穂肥	尿素	1,925	40	3,850	

図1 実証ほにおける施肥体系

◎対象者の意見

小麦の収量向上は、経営改善に向けても大きな課題である。収量向上に向けて、施肥体系を始め、引き続き栽培支援をお願いしたい。(生産者Y氏)